

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 4月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600115
法人名	社会福祉法人 桜仁会
事業所名	グループホーム 風の詩
所在地	鹿児島県阿久根市赤瀬川276-1 (電話) (0996) 64-
自己評価作成日	2012/1/14

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風の詩では、理念の「個性を活かしお互いの人格を尊重」と「感謝の心を表し地域との交流を深める」を日々唱和し意識づけて頭の中に入れてケアに取り組んでいる。その方に合ったケアをスタッフ間で毎月話し合い試行錯誤しながら、その方が楽しく穏やかに過せるようケアを行っている。地域の生き生きサロンに参加し、地域の馴染みの方々との交流を大切にしている。健康面では医師の定期的な往診や訪看のバイタルチェックを行い健康な生活を送れるよう支援を行っている。

[立地・環境]

事業所はJR阿久根駅近くにあり、小高い丘の上に同法人の運営する特別養護老人ホームとデイサービスセンターが隣接している。事業所から東シナ海が一望でき、遠くに白い風車がいくつも見え、素晴らしい眺めである。

[介護体制]

毎日3人の職員が日々理念を基に利用者へ寄り添う介護を心がけており、職員間で目配り、気配りをしながら利用者一人ひとりの行動に合わせて職員も一緒に行動するよう努めている。

[医療との連携]

現在、協力医療機関による月2回の往診があり、また希望や検査などのため他科受診の必要がある場合は家族の協力を得て受診できるようにしている。医療機関との連携についても事前に『処方依頼書』によりバイタルや体調等の状態を伝えるとともに、職員間でも『申し送りノート』により、職員全員が利用者のその日の様子や体調等を理解し把握できるようにし、情報を共有し合う体制が整っており、それぞれに協力関係が築かれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に職員全員で理念を復唱し常に頭の中に入れてにしている。また、事業所会議でも理念に付いて確認行っている。	職員は事業所理念にある「人格を尊重」・「地域との交流を深める」について常に意識し、日頃から話し合いをしている。さらに事業所会議でも理念を確認し合いながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への行事に月一回参加し交流を行っている。民生員の方に運営推進会議に出席して頂いている。	月に1回程度、公民館で開催されている生き生きサロンに参加して地域の方とふれあい、顔馴染みの関係を築いている。また、隣接する特別養護老人ホームで開催される夏祭りや文化祭等に参加し、地域の方々やボランティアの方々と交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	これから資格をとっていこうとされている高校生や、看護学生の研修を積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、行政や家族の代表者の意見・情報を得ている。それらを基に利用者が戸外活動で地域の方とのふれあいを持つようにしている。	運営推進会議には家族や民生委員の他、市の介護福祉課の職員も参加し事業所の活動内容や外部評価の結果報告、また課題に対する対応等について具体的に話し合いが行なわれている。話し合われた内容は、事業所会議でも報告され、運営推進会議の内容を職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等や市の担当者とは話し合いを持って必要に応じ協力し合っている。	事業所のパンフレットを市役所の窓口に置いてもらったり、保険証の更新時に情報を交換するなどしている。また、日頃から運営推進会議などで連携を図っていると必要に応じて協力し質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本人の行動を抑制すること無く、玄関の施錠せず、見守りを徹底したケアを行っている。	身体拘束については、マニュアルを作成し、年1回研修を行ない、職員間での理解を深めている。また利用者や家族には『重要事項説明書』で確認し同意を得ている。利用者個人の行動に対応するため職員は常に様子に気を配り、利用者一人ひとりの行動に合わせて一緒に行動するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待について頭の片隅に置き日々ケアを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	人権擁護について研修会に参加し、色々な問題が起きていることを知りこれからも勉強していかなければならないと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	パンフレットや重要事項説明書を用いて時間をかけ説明し理解して頂くよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	担当者会議・家族会や運営推進会議で要望・意見など伺い運営に取り入れている。また、来居じにも意見等が無いかわっている。	思いをうまく表せない利用者の意見については、職員は常に聞こうとする姿勢を持ちそばについて話を聞き、思いを把握するよう努めている。家族の意見は、年4回の家族会を通して意見をすいあげて、毎月家族に郵送しているお便りと利用者ごとに作成している『月刊報告書』にて情報を発信し、意見が反映されるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員同士のコミュニケーションを密にとるようにしている。また、事業所会議内で職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、意見交換行っている。	管理者と職員は日頃より意見の出しやすい雰囲気であり、職員の提案などその都度話し合われたり、また朝礼や事業所会議でも積極的に話し合える環境となっている。事業所会議では事前に『話し合いたいこと簿』に職員が意見を記入するなど、職員全員の思いが反映され活発な会議となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	急な休みなどの時は速やかに交代できるよう職員同士で協力しており、働き易くなるよう話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協会の研修や桜ヶ丘荘の研修・外部研修等に参加しケアの向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会しており、また地域のグループホームとの交流会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の要望を聞きながら、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、求められていることを受け止め、家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け入れ、職員全員で話し合い状況にあったサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が協働しながら穏やかな生活が送れるような関係を築いていけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月月間報告書を作成・送付している。また、ホーム便りを発行し情報の共有を図っている。ご家族との面会時にはゆっくり過していただき、本人と家族の絆が切れないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブ・お墓参りなどの際家族への面会に立ち寄りたりしている。生き生きサロンへ参加し、地域の方との交流の場を作っている。	利用者を支えてくれた人間関係については、入所者基本台帳を基に把握され、馴染みの関係が継続できるよう外出支援等を行なっている。地域の公民館で毎月開催される『生き生きサロン』には職員とともに参加され、季節ごとに変わる行事に楽しく参加し交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が利用者同士の関係を把握し、気の合う方同士で過せる場面の設定・調整を行い支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の多い老人ホームなどに面会に行ったりして関係の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で希望・意向について聞き取り柔軟な対応をしている。	日頃より利用者に寄り添い接することで思いや希望を酌み取るように努めている。利用者の思いは『利用者様情報連絡表』に詳細に記載され、職員間で情報を共有し、利用者の希望に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や利用時にどんな生活をされてきたのか聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、職員同士の情報交換を密にし行動や言動から利用者の状態を把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を受け入れ、スタッフ全員で話し合い個別の介護計画作成に努めている。	3ヶ月ごとにモニタリングを行なうとともに日常的に利用者の状態とケアプランが適切かどうか話し合われている。ケアプランについては、本人と家族も参加して担当者会議が開かれ、希望を踏まえて話し合っている。確認、同意の手順を踏み、ケアプランを本人や家族に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録や申し送りでその日の状態把握に努め、ケアの実践・計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院受診や外出・外泊等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生き生きサロンや買い物・ドライブ・法人内での交流を大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と本人の状況により医療機関の受診している。	入居前のかかりつけ医を把握するとともに本人、家族の同意の下で医療機関による往診や通院等を行なっている。医師には事前に『処方依頼書』によりバイタルや日頃の様子を伝えるとともに職員間では『申し送りノート』により往診の内容等を確認し合い情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が訪問看護として週1回来られバイタル測定行って頂き、日々の健康管理について相談し、助言して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関や連携室のスタッフと連携を取り情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしながら、家族と連携をとり状況を連絡しスタッフ全員で支援している。	重度化や看取りに関する指針を定め、契約時に本人と家族に同意を得るとともに状態に変化がみられた際は、本人や家族、医師に相談し関係者全員で支援できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、看護師からの助言を得て実践できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て防災訓練を実施している。通報機器・消火器の使い方の指導を受けている。近隣の方への緊急時の応援を依頼している。</p>	<p>夜間の災害を想定した訓練を含む避難訓練、消防訓練を年2回事業所単独で実施している。また、災害時には隣接する特別養護老人ホームからの協力も得られる体制を整えている。ただ、備品については、法人での管理で、その種類、量等の把握が確認できなかった。</p>	<p>事業所は今後、特別養護老人ホームの職員や地域住民にも訓練への参加を呼び掛けるとともに、備品の所在なども含めた一覧表を作成する意向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、声掛け時には本人が安心できるような声掛けを心がけている。	玄関やリビングに『人格の尊重』を含む理念が掲げられ、常に意識して利用者向き合っている。また年に1回『プライバシー研修』を実施しており、日頃から声かけや接し方についても話し合いが持たれているが、事業所側としては、まだ改善を重ねる努力が必要であると感じている。	馴染みの関係は馴れ合いの関係になりやすく、話し方や言葉の抑揚に表れてしまうことがあるので、『人格の尊重』について、より深い認識が持てるよう研修会や話し合う機会が多く持てると、より一層よりよい介護ができると思います。事業所では今後、研修や話し合いの機会を増やしていく意向があるので期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で本人がしたいことを本人のペースで出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床後の整髪・身支度波は御自分でされている。更衣に関しては必要な時に手伝い支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、下ごしらえ、配膳、後片付けを職員と共に行い、食事を楽しんでいただけるよう配慮している。	隣接する特別養護老人ホームの栄養士が立てた献立を基にしながら、その日の利用者の希望に応じて時々食事を変更するなど臨機応変に対応している。また、食材は菜園でできたものを利用したり、利用者と職員が買い物や調理の下ごしらえなどを共に行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量状況をチェック表に記入し職員間で情報の共有をしている。摂取量が少ない方には食事時間以外に果物・スポーツ飲料などを食して頂く様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が声掛けし、その人の状態に応じて手伝っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を元にパターンを把握し声掛け行い、トイレへ誘導している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンの把握に努め、さり気なく声をかけトイレに行けるようにしている。また、排泄状況等を見極めリハビリパンツから下着に替えるなど状況に応じて対応するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るかぎり自然な排便が出来るよう食物繊維・水分・乳製品の摂取を心がけている。また、歩行訓練・散歩などの運動に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めてあるが、希望される方には入浴できる体制をとり、入浴して頂いている。	入浴は基本的には午前中に設定しているが、体調や希望により、入浴日や入浴時間、またシャワー浴にするなど一人ひとりに細やかに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態に応じ日々の生活にメリハリをつけ、休息の声掛けを行い気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方指示書で薬の内容・副作用をいつでも確認できるようファイルを見やすい場所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるよう、洗濯物たたみ・配膳・食事の後片付けなど手伝って頂き、楽しみながらできるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望・体調に応じて買い物やドライブに参加され、楽しまれている。家族と外出され、外食もされている。また、行事としての初詣や花見なども本人の希望を聞きながら、出かけられている。	中庭や居室前にはウッドデッキがあり、天気の良い日には日光浴など外気浴が行なわれている。また、初詣や花見に出かけたり、公園や墓参り、買い物など日常的に外出できるよう支援している。利用者の希望で入居前に住んでいた自宅を見に行ったこともあり、できる限り利用者の要望に応えようと熱心に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に行き、品物を選ぶこともあるが会計はされない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎをしたり、年賀状をお渡ししている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベランダへ出てお茶をする事により季節を感じていただけるよう配慮している。ロビーには余計なものを置かず、居心地良く過せるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関は広く、利用者等が座って靴を脱ぎ履きできるスペースが設けられている。また、中庭や居室前のウッドデッキでお茶を楽しむなど外気浴をしながらくつろぎの時間を過ごすことができている。リビングには利用者と職員が共同で作った作品が季節ごとに変化を持たせ飾られており、訪問者の目を楽しませている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ロビーにソファを設置しており、一人になれたり、気の合う方と話が出来たりと落ち着く場所で過ごして頂けるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に使い慣れたものを置いてもらえるよう協力を得たり、写真や位牌・テレビなどを置きその人らしく過ごせる環境を作っている。</p>	<p>居室には利用者の希望に応じて位牌やテレビ等が持ち込まれ、またぬいぐるみや写真なども好みに飾られ、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。また居室の掃除も1日1回必ず職員が行ない室内を清潔に保つよう努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーになっており、トイレ・浴室・居室など表示し本人が混乱しないよう工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない